

「源頼朝と山梨にいた源氏」

1. 活用資料、展開例に対応する学習指導要領中学校社会科の目標と内容

目標 (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

内容 (2) 身近な地域の歴史

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること。

2. 県史アンケート結果と対応する活用資料の項目

- | | |
|-----------|------------------|
| ・水害・治水 | ・地域の発展に尽くした先人の業績 |
| ・地域に残る文化財 | ・甲府空襲 |
| ・戦時下の暮らし | ・戦国武田三代 |
| ・甲斐源氏 | ・身延山と日蓮 |
| ・幕末・維新の山梨 | ・天保郡内騒動 |
| ・富士川舟運 | ・甲府城・城下町 |

3. 内容(2) 中世の日本 に該当する『山梨県史』

通史編 1, 2

資料編 4 中世 1 (県内文書)

資料編 5 中世 2 (県外文書)

資料編 6 中世 3 上 (県内記録) 中世 3 下 (県外記録)

資料編 7 中世 4 (考古資料)

文化財編 民俗編

4. 展開例「峡北地方の甲斐源氏」に関連する『山梨県史』活用資料

- 通史編 1 原始・古代 「第5節 甲斐源氏の胎動」
 資料編 6 中世3上（県内記録） 「系図」
 資料編 6 中世3下（県外記録） 「吾妻鏡」「平治物語」「平家物語」その他
 資料編 7 中世4（考古資料）「若神子城」「谷戸城」「武田信義館」「願成寺・五輪塔」
 文化財編 「武田八幡神社」

・ その他参考文献

- 萩原三雄監修『韮崎・巨摩の歴史』、郷土出版社、2000
 柴辻俊六『甲斐 武田一族』、新人物往来社、2005

5. 展開例

- * 対象となる時間 学習指導要領 内容（2）身近な地域の歴史 戦いの
 専門家「武士」の登場（帝国書院）後の特設授業
- * 所要時間 1時間（50分）
- * 目標
- ・ 身近な甲斐源氏の史跡について興味を持ち、積極的に調べようとする。
 - ・ 資料の読み取りができ、甲斐源氏と頼朝、甲斐源氏と武田氏の間係を整理することができる。
 - ・ 歴史への視点がひとつではないことを感じることができる。

	学 習 の 流 れ	提 示 資 料	生 徒 の 活 動
導 入 5 分	前時の復習 （平安時代末期の武士の起こりについて質問をする） 源氏と平氏について簡単に解説する。 * 最終的に平氏を滅亡させ、幕府を成立させたのは誰か。 * 教科書に出ているように頼朝は、関東の武士の協力で挙兵しています。誰のことだろうか。	教科書	・ 教師の質問に答えながら、復習をする （武士団の中でも源氏と平氏の率いる勢力が有力だったことを確認する） ・ 源頼朝
	甲斐源氏の基本について学習する。		

<p>展 開 20 分</p>	<p>* 山梨にも源氏がいたことを知っていますか。 * 頼朝とは関係があるのだろうか。確かめてみよう。 * 系図を世代ごとに線を引いて区切ってみよう。 * 資料の年表をたどって気がつくことがありますか。 * 甲斐源氏はどのあたりに根拠地を持っていたのだろうか。 * 実は、甲斐源氏は峡北の地に多くの足跡を残しています。資料を見ながら、史跡の写真を黒板の地図に貼り、関わりの深い甲斐源氏の名を書き込もう。</p>	<p>資料編 6 中世 3 上 15 「円光院武田系図」 16 「成就院武田系図」 通史編 1 原始・古代 図 8 - 5 甲斐源氏系図 資料編 7 中世 4 考古資料 「若神子城」「谷戸城」「武田信義館」「願成寺・五輪塔」 文化財編 「武田八幡神社」 その他資料より 「正覚寺」「鎧堂観音」「清光寺」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことがある。 ・「甲斐源氏」？ ・資料の年表を見て確認する。 ・系図を世代ごとにまとめて関係を確認する。 ・頼朝と関係があるだけでなく、武田信玄ともつながっている。 ・長坂町には、「甲斐源氏発生の地」とかいた石碑がある。 ・須玉町では、甲斐源氏祭りという祭りがある。 ・資料を見る。 ・黒板に写真を貼る。名前を書き込む
<p>展 開 20 分</p>	<p>甲斐源氏と頼朝について学習する。 * 甲斐源氏は、頼朝が平氏に対して兵を挙げたとき、どのような立場をとったと思いますか。 * 甲斐源氏の挙兵の様子は、いろいろな史料に見ることができます。(教師からの解説) * 史料によると、甲斐源氏は「富士川の合戦」をはじめ、各地の戦いに参加し、頼朝に功績を認められているようです。</p>	<p>資料編 6 中世 3 下 「吾妻鏡」「平治物語」「平家物語」より(資料の信憑性についてはなしもする)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろん親戚の頼朝を味方した？ ・解説を聞きながら、史料を見る。

中世 4 考古資料 谷戸城

第一章 集落と城館



図112 谷戸城測量図

第一部 考古資料

102 谷戸城

北巨摩郡大泉村谷戸

別称 城山・茶白山・谷戸ノ城迹
標高 八六五メートル
比高 三〇・五〇メートル



立地 八ヶ岳の山体崩落にともない形成された流れ山地形上に立地し、北側は尾根状を呈し三方は急崖を形成している。東側には東衣川が流れ、西側には六の郭の位置する平坦部が接続し、その西側を西衣川が流下している。

歴史 当城は城山と称され、古くから城跡と認識されてきた。文政八年帳にも古城山の記載があり、甲斐と伝えられている。「甲斐国志」ⁱⁱⁱ項でも清光が正治元年（一一九九）没したとしている。同書はまた、天正壬午の戦いの際に北条氏が修「甲陽日記」にみえる「矢戸御陣地が武田氏による信州攻略ルートであるが、当城と直接結びつける史調査と研究」^{iv}。当城の調査は一九七九八年には桜瀬樹にともない初た。以後、開発に先立つ調査が継続。一九九二年以降史跡の保存整備にともなっている。一九九三年には国の史跡主郭である一の郭から五の郭は輪郭状に配置された郭群である。は一体性が強く、四、五の郭は後